



【問い合わせ先】
釜石海上保安部
交通課長 佐藤 辰也
電話：0193-22-3830

令和6年1月9日
釜石海上保安部

令和5年における岩手県内の海難発生状況（速報値）

1 船舶海難の発生状況

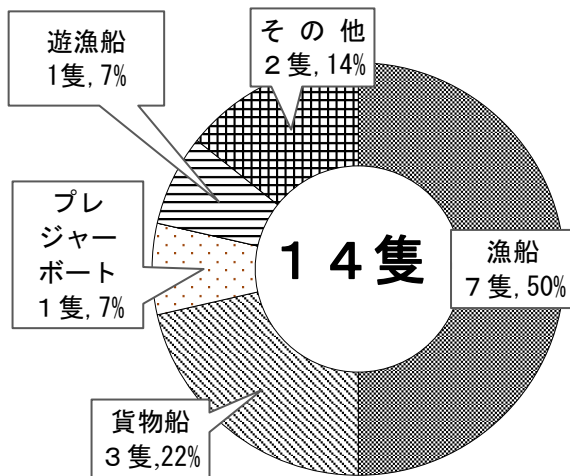
- (1) 船舶海難は14隻で前年と同じ
- (2) 船舶海難に伴う死者・行方不明者数はゼロで前年の5人に比べ大幅減少

2 人身海難の発生状況

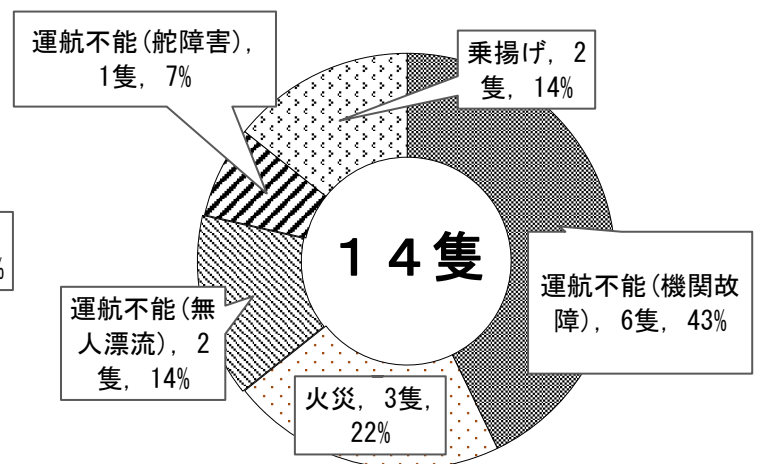
- (1) 人身海難は34人で前年に比べ9人増加
- (2) 人身海難に伴う死者・行方不明者数は15人で前年より2人増加

○ 船舶海難

令和5年船舶用途別発生状況



令和5年海難種類別発生状況



【船舶海難の特徴】

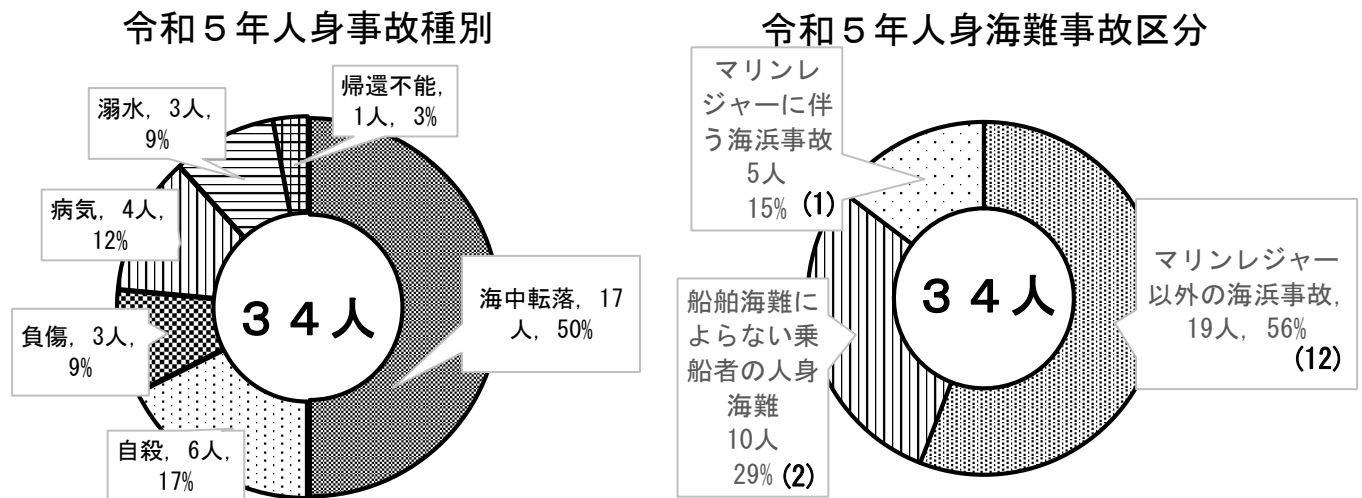
船舶海難隻数は14隻で、前年と同数であるが、過去4年（令和元年～令和4年。以下同じ。）の平均値（21隻）と比べても減少している。

船舶用途別では、漁船が7隻と最も多く全体の半数を占めているが、前年の漁船事故（9隻）に比べて2隻減少し、過去4年の平均値（13.3隻）と比べても減少し、年々減少傾向にある。

海難種類別では、運航不能（機関故障）が6隻と最も多く、うち4隻は漁船等の小型船舶である。

船舶海難による死者・行方不明者はゼロ。

○ 人身海難



() カッコは死者・行方不明者数

【人身海難の特徴】

人身海難人数は34人で、前年に比べて9人増加し、過去4年の平均値（27人）と比べて増加している。

人身海難に伴う死者・行方不明者数は15人で、前年より2人増加し、過去4年の平均値（14.3人）を上回っている。

活動形態別にみると、マリンレジャー活動中の海浜事故数が5人と、前年（2人）に比べて増加し、過去4年の平均値（5人）と同数。

マリンレジャー活動中の海浜事故の活動内訳は、釣り中が4人（全員海中転落、内、死者1名）、遊泳中が1人（溺水）となっている。

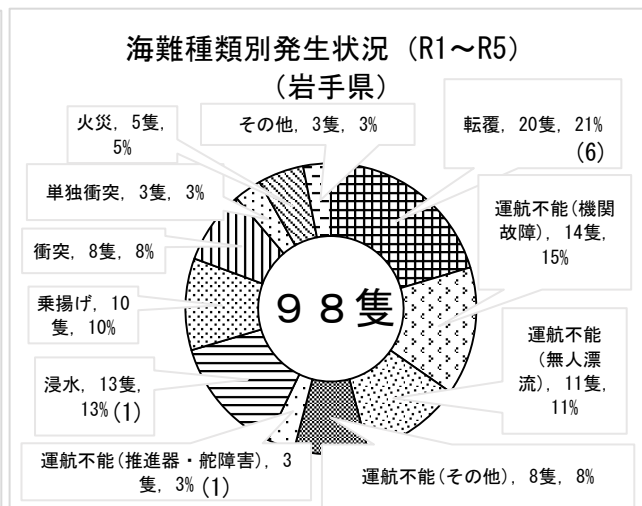
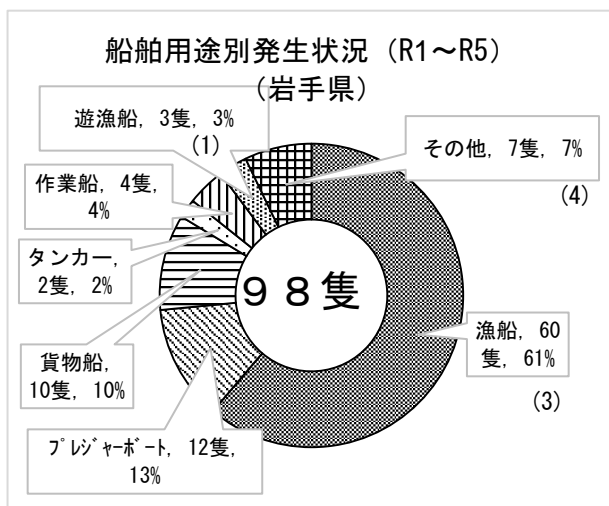
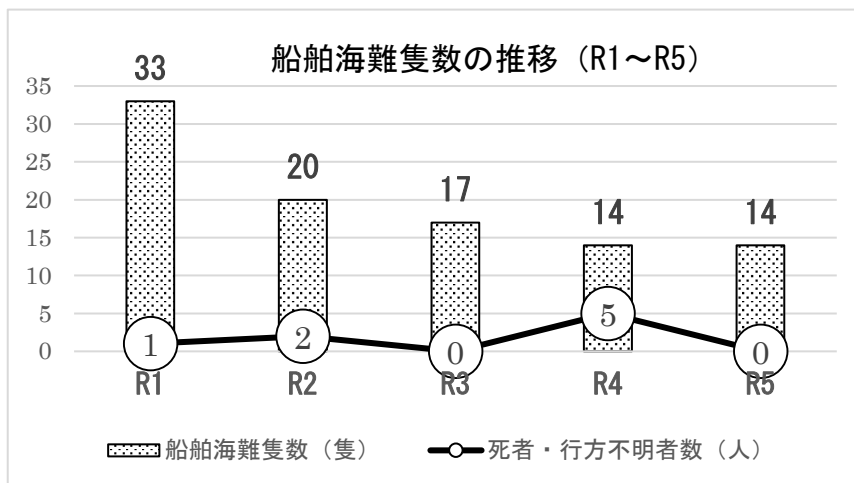
なお、釣り中の海中転落者4人はいずれもライフジャケット未着用であった。

【海難防止対策】

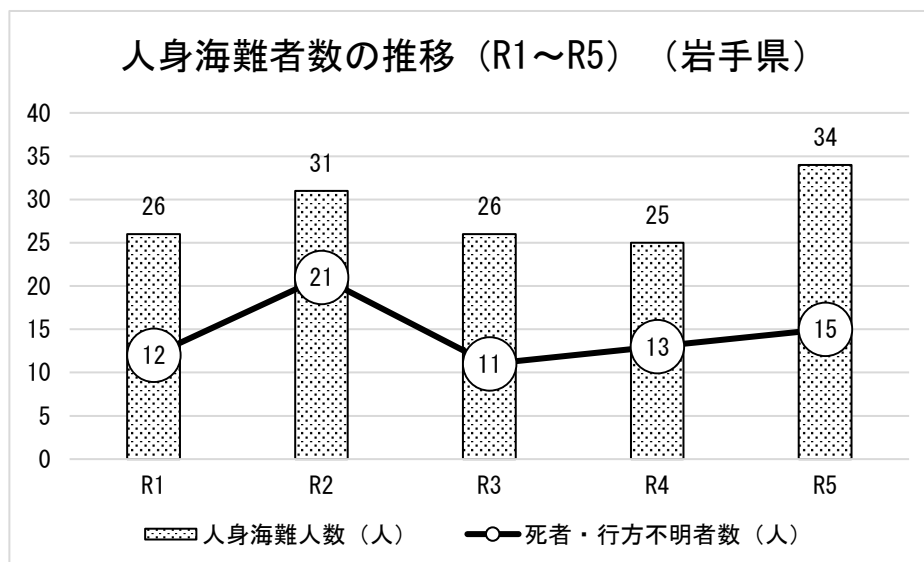
岩手県においては、船舶海難では依然として漁船の占める割合が高くなっています。また、漁労中の海中転落や負傷事故も多いことから、釜石海上保安部では、引き続き訪船指導や海難防止講習会等を通じて漁業者の方々の安全意識向上に向けた取り組みを継続していくこととしています。

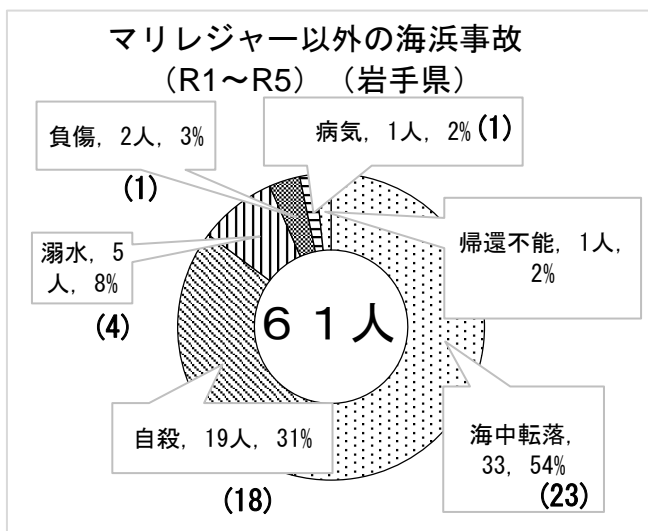
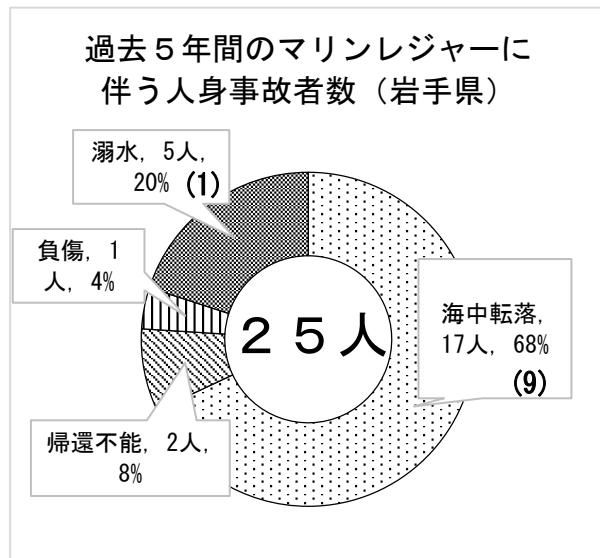
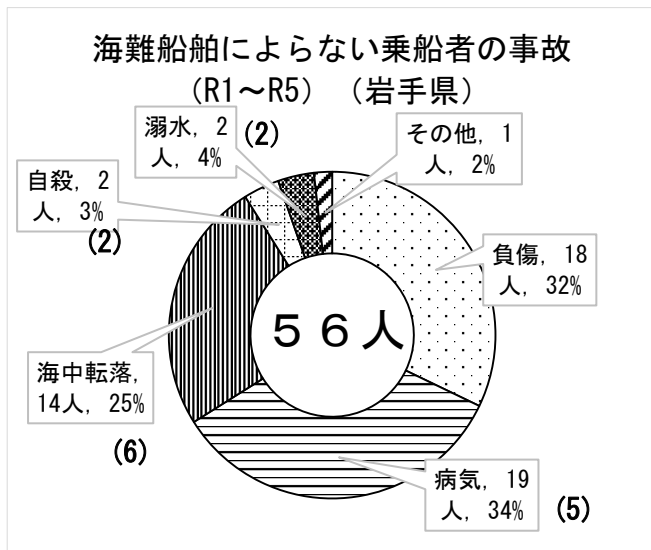
また、釣り中に防波堤等から海中転落する事故が後を絶たないことから、港湾管理者等の関係者と連携し、立ち入りが禁止された防波堤等の危険箇所へ立ち入らないよう現場指導を行い、「ライフジャケットの常時着用」、「複数名での行動」、「携帯電話等の連絡手段の確保」、「118番の活用」等、自らの命を守るための行動について呼びかけを継続していくこととしています。

○（資料）岩手県における海難発生状況（R1～R5）

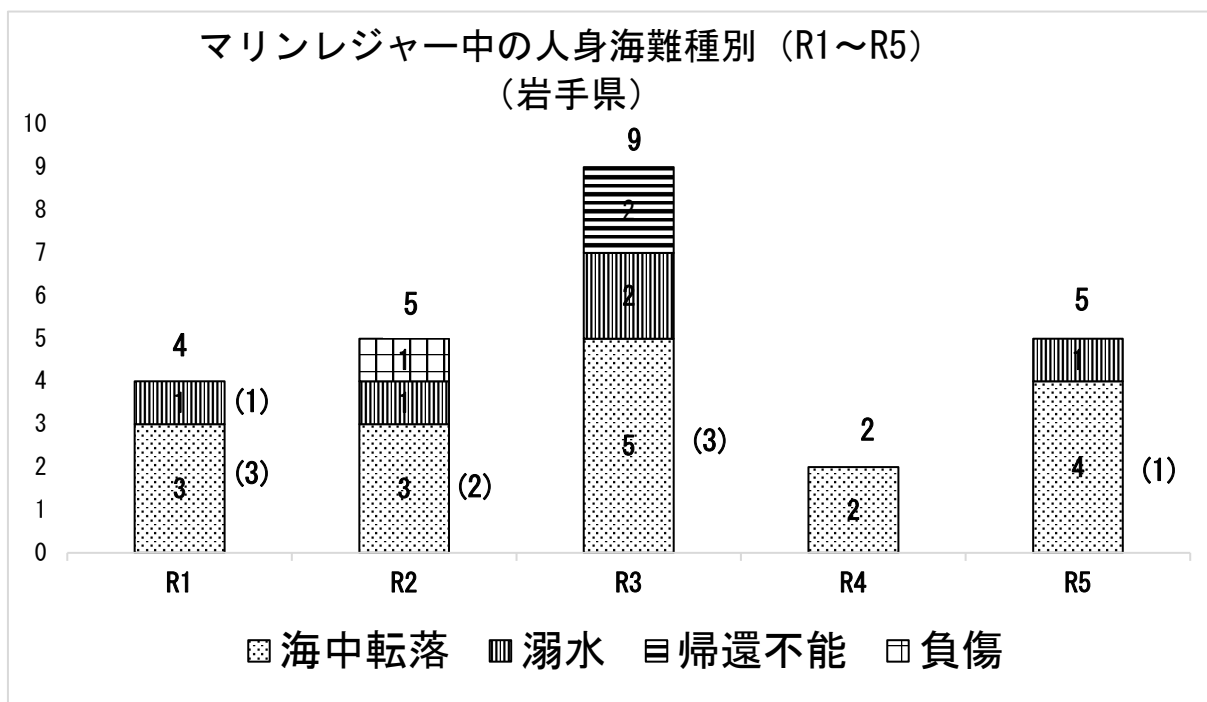


（ ）カッコは死者・行方不明者数



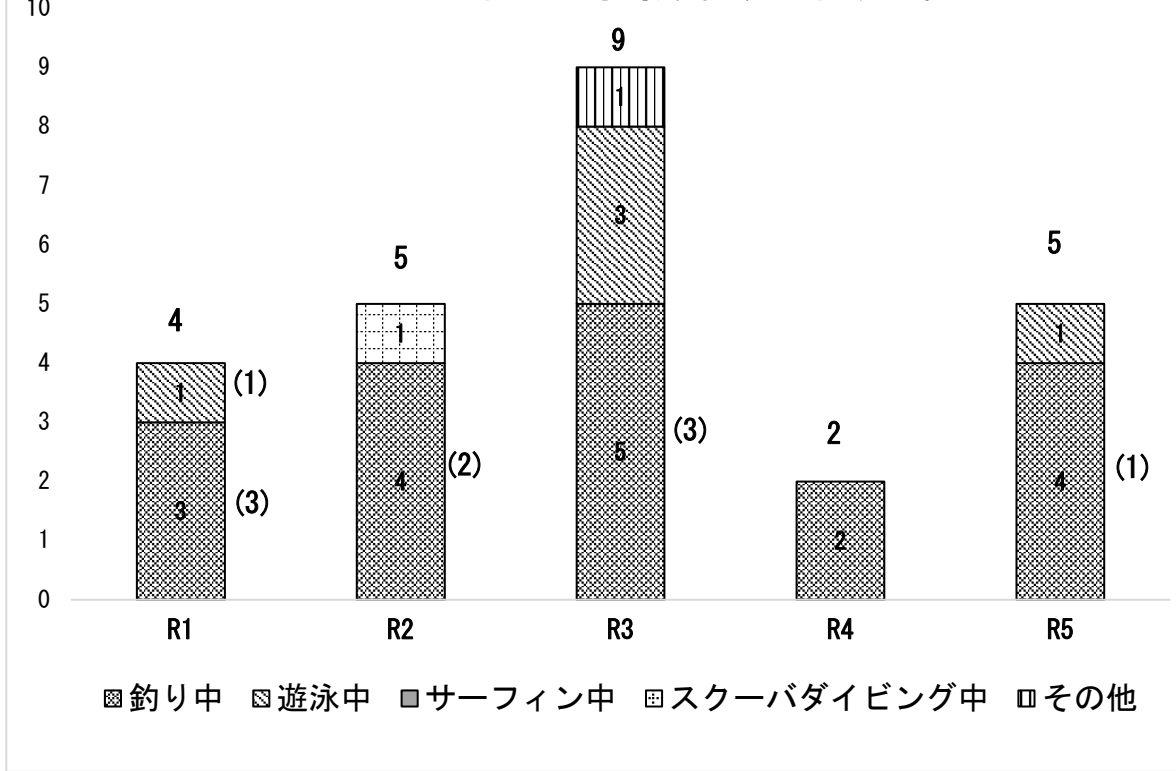


() カッコは死者・行方不明者



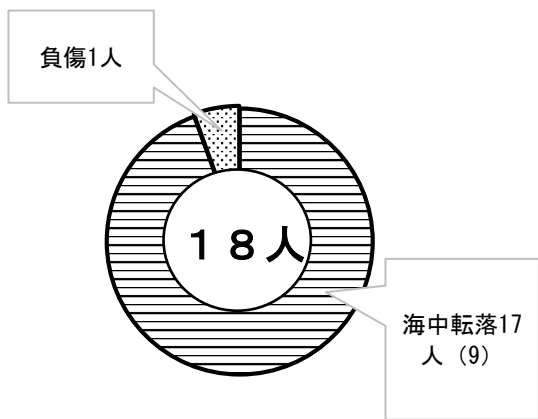
() カッコは死者・行方不明者

岩手県における過去5年間の
マリンレジャー中の人身海難者数（活動内容）

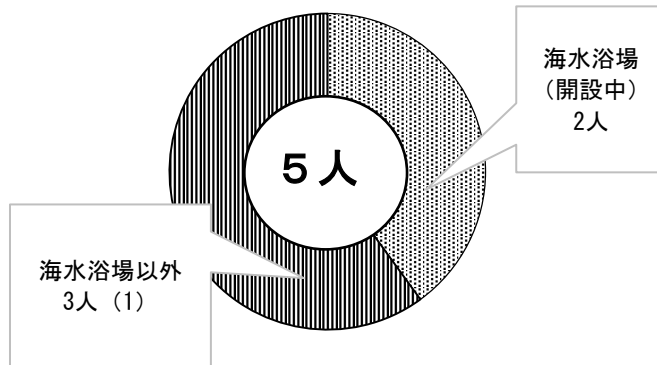


() カッコは死者・行方不明者

釣り中の事故種別 (R1~R5)
(岩手県)



遊泳中の事故発生場所 (R1~R5) (岩手県)



備考：過去5年における釣り中の海中転落者
(17名) は全員ライフジャケット未着用